

序 章

学校法人行吉学園神戸女子大学の歴史は、1940年に行吉國晴・哉女夫妻が創設した神戸新装女学院に遡る。1949年に短期大学制度が制定されたことによって、1950年には神戸女子短期大学を設置した。終戦後日本人の国民生活がなかなか向上しない中で、創設者が女子教育の必要性を痛感したことが短期大学創設に繋がった。その考えは更に発展し、1966年には神戸女子大学を、更に1984年には神戸女子大学大学院を設置した。

その「建学の精神」は、「本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成に、力をつくすにある。」であった。建学の精神を制定するにあたって行吉哉女は、大学一般の公共的な目的に加えて、私学としての独自性を明らかにすることに腐心したこと、女子大学として女性の特性を活かすよう努力することが大切だと考えたことが記録に残されている。

創設時の「建学の精神」は一貫して受け継がれ、爾来世界に開かれた国際都市神戸に立地する学園として、学問的に高い識見を身に付けた心情豊かな女性として自立し、人類社会の発展に貢献しようとする人材の育成を目的に掲げ、多くの卒業生を輩出してきた。

本学は、いわゆる大学設置基準の「大綱化」を受け、1993年に『行吉学園自己点検評価推進委員会規程』に基づいて神戸女子大学自己点検・評価委員会を設置し、自己点検・評価を導入した。1994年には『大学の現況と点検・評価』（神戸女子大学、173pp.）を、1997年には『神戸女子大学将来計画委員会報告』（将来計画委員会、175pp.）を、2003年には『神戸女子大学自己点検・評価 - 現状と課題 -』（自己点検・評価運営委員会、131pp.）を、更に2006年には『行吉学園・21世紀将来構想』（33pp.）を作成してきた。このような自己点検・評価活動は、本学の教育・研究や管理・運営における改革・改善の重要な基盤となり、それを継続することにより、今日まで本学の教育・研究水準を主体的に確保することに貢献してきた。更に、学校教育法が2004年4月1日に改正され、自己点検・評価とその公表及び7年以内ごとに認証評価を受審することが義務付けられたことから、すぐに認証評価に向けた自己点検・評価作業を開始し、2005年には『神戸女子大学自己点検報告書・評価報告書・総括報告書』（自己点検・評価運営委員会、234pp.）を、2007年にも『自己点検・評価報告書（2007年度版）』（自己点検・評価運営委員会、378pp.）をまとめ、受審に備えてきた。

以上のように、本学は卒業生を社会に送り出すことによる社会に対する責任を強く認識し、自らの教育研究活動を恒常的に検証し改善に繋げてきたが、更に社会から本学が求められる質の水準を確保するために、また社会に対して十分な説明責任を果たすために、2006年には財団法人大学基準協会による認証評価を2009年度に受けることを決定した。それを機会に、21世紀の新たな歩みを始めたことの自覚に基づいて、創設時の理念・目的・教育目標を再確認すると共に、私立女子大学固有の使命と社会的・地域的・時代的役割を認識し、新たな教育目標を「神戸女子大学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育てる。」と再定義した。

全学をあげて認証評価に向けた取り組みを開始するに当たって、「何のための評価か？」という点に関して、第一に大学が自身の諸活動に対する改革・改善のビジョンを示し、認証機関からそれに対する指導・助言・支援を受けるのが認証評価であること、第二にその結果を社会に公表することが重要で、それによって大学の価値を社会にアピールする機会となることを全

序章

学で確認した。即ち、認証評価が義務付けられているから報告書を作成すればそれでことがすむのではなくて、その行為を通じて、大学に係る人たち、特に受験生、在学生及びその保護者たちに、「神戸女子大学は自分たちのために、こんな大事なことをしてくれる。」という思いを伝えられるように、報告書には本学の個性・特色を集約する必要がある。そのために大学の全構成員が点検・評価の諸側面について、人々の思いを見極め、それらをきちんと汲み上げることによって「大事なこと」を明確にし、それらについて現状を把握し、更に分析・評価して問題点について改善策を導き出すことが、報告書作成の基本的な考え方であるとみなした。神戸女子大学が自らの個性・特色を社会に発信し、地域への貢献と共生を続けていくためには、自己点検・評価のプロセスを避けて通ることはできないのである。

こうして全学合意のもとに、積極的に係った教職員の作業努力の結果完成したのが、本報告書『神戸女子大学自己点検・評価報告書』である。本学が、今後より一層、学生や社会からの信頼に応え、学生本位で、地域に根ざした大学であり続けるために必要なメッセージを本報告が発信しているものと確信している。